

学位論文審査の要旨

	佐野 潤子【博士】 【人間発達学専攻 平成7年度生】 (平成12年9月30日 単位修得退学)	要 旨
学位申請者		<p>本研究の主な目的は学校教育におけるキャリア教育経験が日本の有職母親の仕事満足感へどのような影響を与えているのかを明らかにすることである。申請者はキャリア教育経験に焦点を置き、他にも家族、意識、職場要因を含めた総合的な理論枠組みを、人的資本論、拡大役割理論、資源理論、選択・交換理論などを援用して構築した。この理論的モデルから導き出した仮説を「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」(お茶の水女子大学)プロジェクトで収集された 2011 年度のデータ(「ワーク・ライフ・バランスに関する調査～女性のキャリア形成と男性の子育て参加に視点を当てて」)の有職母親のサブサンプル(N=185)を使用し、パス解析分析などにより検証した。また、同プロジェクトで収集されたヒアリングデータを用いて、仕事満足感に関わる概念を抽出した。主な結果として、キャリア教育経験があることが有職母親の仕事満足感を高めていた。また、女性が複数役割を担うことに満足していることや仕事に関する学びが多いことが仕事満足感に正の影響を与えていた。</p> <p>予備審査委員会は平成 27 年 12 月 25 日に開催され、本審査委員会は平成 28 年 4 月 12 日、6 月 28 日、9 月 13 日、10 月 18 日の 4 回開催された。これらの審査委員会においては、先行研究が少ないキャリア教育経験と女性の仕事満足感の関係について検討することは十分評価されたが、理論の精査やキャリア教育と家庭科教育の関連などに関するコメントがあった。審査委員の指摘に基づいて大幅な書き直しが行なわれ、審査委員全員のコメントに対応した結果、審査委員会を重ねるごとに、かなりの改善が認められた。</p> <p>審査委員会は、学際的な理論を用いてキャリア教育経験と有職母親の仕事満足感に関する包括的な理論を構築したこと、パス解析によりキャリア教育経験と仕事満足感の関連を検証できたこと、インタビュー調査の分析により女性の仕事満足感に関連する要因の詳細を解明できたこと、実践面や教育面で重要なインプリケーションを導き出したことが本研究の主な意義であると認めた。</p> <p>公開審査会は平成 28 年 11 月 1 日に行なわれ、発表は非常によく整理され、多くの質問に対して申請者は適切に応答した。審査委員会は、本論文が、本学大学院人間文化創成科学研究科の博士の学位の水準に十分達していることを認め、合格とし、博士(社会科学) Ph.D. in Social Sciences の学位を授与することを全員一致で決定した。</p>
論文題目	有職母親のキャリア教育経験が仕事満足感へ与える影響 -学際的視点からの検討-	
審査委員	(主査) 教授 石井 クンツ昌子	
	教授 小玉 亮子	
	准教授 斎藤 悦子	
	教授 藤崎 宏子	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第 24 条第 4 項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

